

無料低額宿泊所への適切な指導を

日本共産党

丸山 わき子



無料低額宿泊所について

問 無料低額宿泊所は、生活困窮者やホームレスとなつてしまった人に無料または低額で居室を提供し、就労や自立を支援する民間施設であるが、生活保護を受けている人から保護費のピンはねや入所者の権利侵害が行われ、貧困ビジネスとして社会問題化している。八街市内にある無料低額宿泊所・類似施設は、適正な運営がされているのか何う。

市長 事業者に、県のガイドラインに従つて運営を行うよう指導しています。入所者の自立支援の指導について

問 こうした施設は、3カ月程度が入居の目安であり、その後は自立していくが、実際は、7割強が1年以上滞在、長い人は5年も滞在している。積極的な自立支援をすべきだが如何か。

市長 11月末から国の制度を活

用し、1名を雇用し取り組んでいます。また、新年度に向けて、臨時職員を雇用し力を注いでいきたいと考えています。この問題を解決するために、八街市のガイドラインが必要だと考えるが如何か。

市民部長 平成22年3月までに作成したいと考えています。

市長 六区地先に建設されようとしている類似施設への市の対応を何う。

市長 無料低額宿泊所は届出のみで開設でき、また、寄宿舎やアパートといった建築確認申請があればなおのこと、建築基準法が遵守されていけば、建築を阻止できないのが実情です。しかし、市内には2カ所の無料低額宿泊所と、それに類似する施設が3カ所存在し、まだ空室も存在することから、当市にはこれ以上必要ない施設と認識しています。今後、新たな無料低

介護予防の拡充と施設整備の充実を

日本共産党

京増 藤江



介護保険について

問 指導者を養成し、地域ごとに身近な場所で介護予防に取り組む施策を求めるが如何か。

市長 本市では、高齢による転倒、骨折の防止などを目標に「介護予防事業」の教室を複数回開催しており、今後も介護予防に努めていきます。

問 高齢者が増えることを見据え、年間を通じて介護事業の計画が必要である。同時に市民の指導者の養成や地域ごとに身近な場所で介護予防に取り組む施策を求めるが如何か。

市長 現在、検討をしています。

冠水対策について

問 真井原地先の対策について何う。

市長 側溝清掃を実施します。必要があれば改修を行います。

問 加者が少なかつた原因を研究し、年間計画を立てるべきである。そのためにも、実際に介護

予防に取り組んでいる市民の力を生かすべきである。また、介護予防活動をしている市民は、会場の確保に困っている。意見を聞いて研究すべきと考えているが如何か。

介護保険課長 中央公民館などを使って活動している方々に支援できることがあれば支援していきます。

問 特別養護老人ホームへの入所待機者は120人にのぼり、ショートステイも十分利用できず施設不足は深刻である。施設の整備計画について何う。

市長 指定介護老人福祉施設については、1施設30床を増床し、平成23年度の開設を予定し、認知症対応型共同生活介護については、3カ年で延べ3施設・定員27名の施設整備を、夜間対応型訪問介護については1事業所・利用者数12名の整備を予定しており、入所待機者及び施設数不足の解消を図

道路の安全対策と整備について

問 交通規制と道路拡幅について何う。

市長 八街横芝線から八街五差路に向かう市道06001号線について大型車の通行規制及び一区50号線の拡幅を求めるが如何か。規制について、平成21年2月26日付で佐倉警察署に再度要望し、市のできる対策として、注意喚起を促す看板及びカーブミラーを設置しました。道路拡幅については、優先順位を検証しながら、今後の整備計画に盛り込んでいきたいと考えています。

道幅の狭い一区50号線

